

次のエピソードを読んでみましょう!

何か気になることはありませんか?

私がボランティアで車いすを利用しているCさんの介助をして、1週間が過ぎました。
大変なこともありますがいやがいを感じています。



ある日、欲しい本があるということで、Cさんと一緒に本屋へ向いました。Cさんが本を探していると、店員さんが私に向かって、「何をお探しですか」と話しかけました。私が『〇〇』という本を探しています」とこたえると、店員さんはすぐにその本を持ってきてくれました。親切な店員さんだと思いました。

私が「お目当ての本があってよかったね」とCさんに話しかけると、Cさんは「うん」と言いましたが、なんだかうかない表情でした。

私は、どうしてCさんがうかない表情をしているのか不思議に思いました。

★この店員さんの対応について、どう思いますか。

★店員さんは、Cさんが本を探していることを知っていましたが、車椅子に乗っているの、介助している私に話しかけています。車椅子に乗っている障がい者なので、話しかけてもわからないと判断したのかもしれない。



☆Cさんがうかない表情をされたのはどうしてだと思いますか。

☆本を探しているのは、私ではなくCさんです。店員さんは、私ではなくCさんに話しかけるべきですね。店員さんが、「車椅子の人だからわからないだろう」と勝手に判断して、話しかけなかったことは、障がい者であるCさんの人権を無視したことになります。自分では気づかず、差別したことになります。また、そのことに気づかなかった私も、差別を見逃してしまっています。

私たちは人権を尊重する生き方のロールモデルです

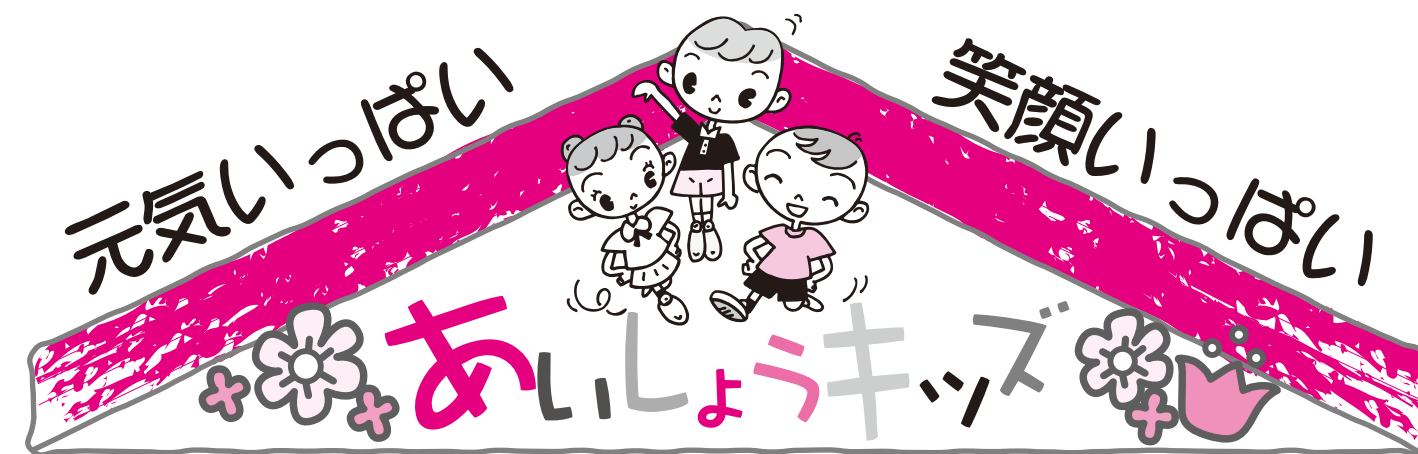
このように、私たちの日常の様々な場面に「差別の芽」があり、“差別は差別する人の問題で、差別しない自分には関係がない”ということはありません。

何気ないことへの気づきの積み重ねによって人権感覚は磨かれていきます。

「差別の芽」が自分の中にもあることに気づくには、日頃から自分が差別の土壌を作り出していないか意識することが大切です。

私たちは人権を尊重する生き方のロールモデルです。

まずは、自分自身の言動を振り返ってみましょう。それが差別に気づき、なくしていくことへの第一歩です。



秦川愛児園 ふじぐみ (5歳児クラス)

元気いっぱい!笑顔いっぱい!のふじ組19名のお友だちです。園庭で寒さに負けずマラソンをしたり、氷鬼ごっこやしっぽとりなど楽しく遊んでいます。
残りの保育園生活をみんなで楽しくすごそうね!

ふじ組担任 中村 智美 河池 美沙希



秦荘幼稚園 いちごぐみ (4歳児クラス)

楽しいことを見つけるのが得意ないちご組17名の子どもたちです。運動会や発表会を経験し、友だちと力を合わせて取り組む楽しさや体をいっぱい動かして遊ぶ心地よさを感じ、ひとわりまた成長しましたね。これからも友だちと楽しいことをたくさんみつけて、どんどんいろんなことに挑戦していこうね!!

いちご組担任 伊谷 明子 徳重 恵子